

NGO 座談会

(コミュニケーション活動)

財団法人オイスカの中にある環境ISO部会(1998年から活動スタート)に
関係している皆様にお集まりいただき、今年度の栗本の環境活動全般につ
いてのコメント、また環境報告書に対してのご意見、アドバイスなどもいた
だきました。

日時：2000年11月15日 18時から21時まで

場所：栗本鐵工所本社 会議室

方法：事前に今回の印刷前の環境報告書を送付し、それをもとに評価

大畑:本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。環境コンサルタントの皆様は環境専門家としての厳しいアドバイスをいただければ幸いです。本報告書はGRIの経済・環境・社会的側面に分類し、要点を24ページという限られたスペースで表現しております。忌憚のないご意見をお願いします。まず、全体についてのご意見をいただければと思います。

高橋:読者層をどのあたりに設定しているのか、少しわかりづらい。「サステナブル」という言葉があちこちにでてくるが、環境に詳しい人以外はこれが何を指しているのかわからないかも？ また、実際に企業のめざす「持続可能性」の像が見えにくい。

森:確かに全体的に一般向けを意識して、詳しく説明しすぎているところもあるようだが、それはそれで全体を理解しやすいと思う。「鑄造技術」については、特に環境負荷の大きいところなので理解を深める必要があるから詳しくてもいい。「サステナブル」という言葉についてはまだ知見が少ないので、環境負荷を下げるというだけでなく、「持続可能な開発」の具体的な意味を述べるべきだろう。

高橋:大量消費、大量廃棄の経済のターニングポイントである今、「持続可能な開発」は栗本1社でなく、社会全体で考えていかなければならない大きなテーマでもある。しかし、全体的にはよくまとまっていて、知りたいことがわかる構成になっていると思う。トピックスで具体的にできているところがわかりやすい。



宇田:社長のコミットメントが、ご本人の口から語られた言葉だけあって説得力があり、熱い思いが伝わってくる。とくに「一人ひとりが、自然の恵みに生かされていることに感謝し謙虚にふるまう」という考え方には大変共感した。

高橋:環境ISOに加えて、「営業ISO」という考え方は、非常にユニークだ。売上げ目標だけでなく、営業マンにCO₂削減目標を設定するというのは、社会的にも貢献度が大きくなっていくことだろう。

大畑:営業ISOについては、その方向性を社内で理解してもらっているところでは、ISO14001の枠組みにナチュラル・ステップの「4つのシステム条件」を導入することにより持続可能な社会づくりに貢献できる「営業ISO」としていきたいと考えています。12月中旬にこの考え方で本支社店ISO14001一括認証取得のキックオフを行い、来夏には認証取得の予定です。

宇田:年表のところで、マイナス情報をきちんと公表しているのは、非常に評価できる。

森:環境会計は、まだ段階的ということだが、今後に期待したい。レベルの話だけでなく、何年にどうするのかという数値目標があつてさらにその段階が明確になっていたほうがいいと思う。

中島:クリモトは、労働安全衛生マネジメントシステムBS8800の認証を日本で初めて取得したが、認証取得とその意図されることをもっと詳しく掲載されたほうがいい。それから、CO₂は総量だけでなく、従業員1人当たりとか、原単位当たりの量も検討されてはどうか。

高橋:中期の目標が明確になっていないところもあるが、今後の課題としてしっかり定めていくべきだろう。

宇田:廃棄物とCO₂のパフォーマンスもしっかり経年変化

座談会出席者(6名)



宇田 吉明氏
(財)オイスカ関西総支部会員
コスモ・エコロ・ネット代表
(もと明治製菓株式会社)



森 義信氏
(財)オイスカ 関西総支部 参与
環境カウンセラー
EARA準環境監査員



泉 正三
栗本環境委員会
教育広報分科会座長



中島 延雄氏
(財)オイスカ 関西総支部会員
中島環境経営研究所所長
(もと日本建業株式会社)



高橋 榮一氏
(財)オイスカ 関西総支部会員
新日本認証サービス株式会社
取締役



大畑 明
株式会社栗本鐵工所
環境管理部長、環境カウンセラー
企業内ナチュラル・ステップ・インストラクター

でその推移も算出できるようにしたほうがいい。

高橋:2000年度の目標と進捗状況をもう少しデータで出し、その成果を確認する仕組みが大切だ。

宇田:環境調和機器の説明にかなりのページを割いているが、この機械自体が環境性能の高いもので、さらに先ほどの営業ISOにつながるものだから、社会的に環境負荷を下げるために貢献しているという趣旨を記述しておいたほうが、栗本の基本方針も同時に伝わるだろう。

高橋:中堅社員向け教育については自主自立の考え方に合わせた「選択式」がユニーク。6つのテーマを明確にし、受講者がどのテーマを選んでいるのかを表組みにして実績を伝えてもよいかもしれない。

泉:6つのテーマには、創造性開発的なものなども入っています。もっとページを割いて紹介したいところですが…。社長の「経営は人なり」の思いは強く、質の高い「人づくり」にも熱心で、研修センターや教育のプログラムは充実していると自負しています。環境をテーマにしたものを、これか



らもっと充実していく予定です。

宇田:2001年4月から施行されるグリーン購入法をにらんで、グリーン購入やグリーン調達についても取り組んでいるのなら、実績はまだ出ていなくても考え方は載せていくべき。協会社とともに環境負荷低減に向けて取り組んでいくというグリーン調達は特に評価されるべきところだから…。

森:社会的な側面としてのページも環境報告書にのせているのは社会の中の企業の全体像がよく見える。特に「エコロベース」は2008年夏期五輪招致をめざす大阪市も熱心に取り組んでいるが、企業単位で採用しているのは、栗本だけしかない。「エコロベース」は日本レジャー・リクリエーション学会でも認められた新しい時代のリクリエーションで、環境にも人にもやさしいルールなので、これからも積極的に取り組んでいかれることを望む。

最後に・・・

大畑:「最初の環境報告書にしては、全体的にはなんとかまとまっている」というお褒めの言葉もいただきましたが、専門家の厳しい視点によって、かなり細かいアドバイスやチェックなどが30項目以上ありました。この項目については、部分的に今年度に盛り込ませていただきますが、中期の目標などは来年度以降の課題として取り組んでいきたいと考えています。また、必要に応じてホームページなどで情報を補うことも考えています。みなさまのおかげで、環境報告書の社外のコンセンサスが得られたことを大変うれしく思います。本日は遅くまで有意義な議論をいただきありがとうございました。

クリモト環境報告書2000

発行日/2000年12月14日発行

発行人/取締役 石倉正勝

本報告書についてのご意見やご質問は下記までご連絡下さい。

株式会社栗本鐵工所(担当:環境管理部 大畑明)

〒550-8580 大阪市西区北堀江1丁目12番19号

TEL:(06)6538-7714 FAX:(06)6538-7756 E-mail:a_ohata@kurimoto.co.jp

栗本鐵工所ホームページアドレス:<http://www.kurimoto.co.jp/>

制作協力/株式会社クラン